

過去に交付されたロゴマークの管理に係る調査結果

1. 目的

事業実施要領にはロゴマークの使用方法について規定されている。そこで、交付されたロゴマークが実際にどのように使用されているかを確認した。本調査では、本事業のメリットとしての位置付けを把握すること、また、事業実施要領に照らして不適切な使用が行われていた場合には注意喚起を行うことで修正を促し、ユーザーに誤った情報を発信することを防ぐことで、本事業の適切な運用の補佐を行うことを目的とする。

2. 調査対象

調査対象は、「A：平成 27 年度の実証済技術（17 件）」の他、「B：平成 26 年度に環境省担当課室から修正依頼を行った技術（20 件）」及び「C：平成 26 年度に今後修正依頼を検討すべきとした技術（6 件）」の計 43 件を対象とする。

上記 A、B とは、過年度に行った平成 19～25 年の実証済技術のロゴマーク等の使用状況調査の結果、抽出された技術である。過年度調査の結果抽出された使用状況と当該使用に関する事業実施要領の記載内容を表 1 に示す。A は、表 1 の(a)又は(b)に該当するものであり、過年度に修正依頼を行うにあたり、(c)及び(d)も併せて修正依頼を行っている。B は、表 1 の(c)～(d)にのみ該当するものである。

なお、単年度中に一つの企業が複数の技術を実証している場合、基本的にロゴマークの使用方法は同一と考えられるため、まとめて 1 件とカウントしている。調査対象を表 2～4 に示す。

表 1 使用状況と事業実施要領の規定内容とその評価項目

事業実施要領（第 13 章）の規定	調査項目
4.（2）① 実証事業関係諸機関による実証済技術の事業者、製品、技術、サービス等についての保証・認証・認可等を少しでも謳うような状況で使用しない。	(a)「実証」であることに関する誤解を与えかねないもの
4.（1）③ ロゴマークに対して、切断・分割・変形等の加工を行わない。ただし、ロゴマーク全体の大きさを変えることは可能である。	(b)ロゴマークの加工を行っているもの
4.（1）④ ウェブサイトにおいて使用する場合、ロゴマークは環境技術実証事業ホームページ（ http://www.env.go.jp/policy/etv/ ）へのホットリンクとする。	(c)ロゴマークをウェブサイトにおいて使用している場合にロゴマークを環境技術実証事業へのホットリンクとしていないもの
4.（2）③ 実証対象技術が明確に判別できるようにロゴマークを配置する。	(d)会社 HP のトップページに個別ロゴマークや実証番号を載せているもの
追加的検討	(e)実証結果まで紹介されていないもの
	(f)ETV にまったく触れていないもの
	(g)ETV の説明が環境省の事業実施要領とは異なるもの
	(h)ETV 事業における用語等が間違っているもの

表 2 平成 27 年度の実証済技術一覧

技術分野名	実証番号	実証済技術名	会社名
中小水力発電技術分野	120-1501	クロスフロー水車 H.C.F Waterwheel	合同会社ひおき発電
	120-1502	クロスフロー水車 TBRCR2014-1	エネフォレスト株式会社
	120-1503	クロスフロー水車 TBHC-1R1G31	
	120-1504	低落差用小水力発電設備 Low head tubine system	株式会社松本鉄工所
自然地域トイレし尿処理技術分野	030-1501	循環式し尿処理槽/Circulation Water Closet (水使用—生物処理—薬剤添加(酵素剤))	株式会社ハイテックス
	030-1502	TSS 汚水処理施設/Taisei Soil System (水使用—生物処理—土壌)	大成工業株式会社
有機性排水処理技術分野	020-1501	BS-400 バイオ固形剤による油水分離水槽内油分除去方法	セキュリオン・24 株式会社
閉鎖性海域の水環境改善技術分野	090-1402	酸化マグネシウムによる低質改善技術	宇部マテリアルズ株式会社
湖沼等水質改善技術分野	080-1401	環境配慮型攪拌装置 「エムレボ エムレボエア」	株式会社エディプラス
	080-1402	促進酸化水処理システム	株式会社竹村製作所
ヒートアイランド対策技術分野 (建築物外皮による空調負荷低減等技術)	051-1501	＜窓用後付け複層ガラス＞ トロボス	日本板硝子環境アメニティ株式会社
	051-1502	＜窓用日射遮蔽フィルム＞ 窓用日射遮蔽フィルム(内貼用) HX-3S	旭硝子株式会社
	051-1503	＜窓用日射遮蔽フィルム＞ 窓用日射遮蔽フィルム(内貼用) X-3C	旭硝子株式会社
	051-1504	＜窓用日射遮蔽フィルム＞ 窓用日射遮蔽フィルム(内貼用) エコシードフィルム Insulation	株式会社 ESC 研究所
	051-1505	＜窓用日射遮蔽フィルム＞ 窓用日射遮蔽フィルム(内貼用) ペンジェレックス PX-7570N	日東電工株式会社
	051-1506	＜窓用日射遮蔽フィルム＞ 窓用日射遮蔽・指向性反射フィルム ALBEEDO・IRA2J700(指向性反射技術)	デクセリアルズ株式会社
ヒートアイランド対策技術分野 (地中熱・下水等を利用したヒートポンプ空調システム)	052-1501	【実証単位】(A)システム全体 山形県山形市の日本水資源開発株式会社 事務所における地中熱利用冷暖房システム	日本地下水開発株式会社 日本地下資源開発株式会社
	052-1502	【実証単位】(B) 地中熱／下水等専用ヒートポンプ 高効率大容量ヒートポンプチラー ZQHt-45W45st	ゼネラルヒートポンプ工業株式会社

表3 平成26年度に修正依頼を行った技術一覧

技術分野名	実証番号	実証済技術名	会社名
有機性排水処理技術分野	020-1103	余剰汚泥減量システム「オーディライト」	四国化成工業株式会社
	020-0901	厨房排水処理装置“ECOTRIM”	OPPC 株式会社
	020-602	食品残さ回収システム『ラクッチャ〜』	有限会社 KOMATSU
	020-0408	微生物製剤添加型ハイブリッド生物処理法	株式会社 エス・エル
ヒートアイランド対策技術分野 (地中熱・下水等を利用したヒートポンプ空調システム)	052-1003	(A)システム全体 学校法人森村学園における地中熱利用ヒートポンプシステム	ミサワ環境技術株式会社
閉鎖性海域における水環境改善技術分野	090-0802	複合的沿岸環境改善技術	株式会社マリンアース
	090-0802	複合的沿岸環境改善技術	海洋建設株式会社
	090-0801	人工中層海底による閉鎖性海域における生物生息環境の改善技術	
	090-0702	海底耕耘機によるマイクロバブルエアレーション	株式会社キューヤマ
ヒートアイランド対策技術分野(建築物外皮による空調負荷低減等技術)	051-1307	クリアシールド・SC 70 E	株式会社 PVJ
	051-1102	ハニタウインドウフィルム SZ02M	
	051-1001	SG06M	
	051-0901	SZ20B15	
	051-0802	SZ05OT	
	051-0717	SZ70M	
	051-0616	SC70	
	051-0617	SZ20S	
	051-1227	まどりーど・HP ブラウンスモーク	大建工業株式会社 / 株式会社ミナミヒーティングプラン
	051-1128	セラミックコート	日本テレニクス株式会社 / 株式会社都市ネット
	051-0966	ミラクール SW200	ミラクール株式会社 ミラクール株式会社 / 長島特殊塗料株式会社
	051-0847	ミラクール S300	
	051-1034	水性シリカクール F TYPE	株式会社 丸協
	051-0928	EX クリアーG	株式会社エコゴールド
	051-0946	エコクールアクア Si・水性遮熱塗装システム	大日本塗料株式会社
	051-0947	エコクールマイルド Si・弱溶剤形遮熱塗装システム	
	051-0948	エコクールアクア Si・水性(低臭)塗装システム	
	051-0937	サーモシャダン PU	中国塗料株式会社
	051-0938	サーモシャダン AR	
	051-1039	サーモシャダン PU MS	
	051-0935	ルーフシェード	日本ワイドクロス株式会社
	051-0811	アットシールド・クリア YM8YX-4	株式会社フォーユー
	051-0725	アットシールドクリア・YM8YX	
	051-0858	アドマクールペイント ソフトリカバルーン	菊水化学工業株式会社 / 株式会社アドマテックス
	051-0730	露取りガラス(既存の窓ガラスに片側 Low-E ガラスを使用した複層ガラスを取り付ける技術)	青木硝子株式会社 →アオキ株式会社に社名変更

表 4 平成 26 年度に今後修正依頼を検討すべきとした技術一覧

技術分野名	実証番号	実証済技術名	会社名
有機性排水処理技術分野	020-1301	スカムセーフネット&オイルキャッチシステム NH・KB シリーズ	株式会社サンユウ
	020-1302	スカムセーフネット&オイルキャッチシステム NH・F シリーズ	
ヒートアイランド対策技術分野 (地中熱・下水等を利用したヒートポンプ空調システム)	052-1301	埼玉県桶川市の株式会社 P E C 事務所における地中熱利用冷暖房システム(実証単位(A))	株式会社 PEC
ヒートアイランド対策技術分野(建築物外皮による空調負荷低減等技術)	051-1311	クリスタルレント省エネガラスコーティング・KB90	株式会社 ECOP
	051-1214	エコートプラス	イサム塗料株式会社
	051-1221	エコフィックス・E-120R	五洋インテックス株式会社
	051-1015	省エネ ECO ガラスコート S P	株式会社 ECO ビジネス倶楽部本部

3. 調査の方法

平成 27 年度実証済技術については、実証試験結果報告書に記載の URL をベースにロゴマークの使用状況を調査し、過年度調査分については、調査時の URL をベースに調査を実施した。URL が現在使われていない場合は、会社名や実証済技術名、実証番号等をキーワードに検索を行い、関連する URL を特定した。

確認作業については、(a)実証であることに関する誤解を与えないか、(b)ロゴマークの不適切な加工を行っていないかという視点の下、平成 28 年度環境技術実証事業実施要領の「第 13 章ロゴマーク等の使用」(内容は本資料末尾参照)に照らし、適切に使用されているかを調査した。

4. 調査結果

4.1 平成 27 年度実証済技術の調査結果

平成 27 年度実証済技術の調査結果概要を表 5 に示す（詳細は別紙参照）。

不適切な使用を行っている事例はなかったが、ロゴマークを ETV 事業ホームページへのホットリンクとしていない事例が 2 件あった。

また、平成 27 年度実証済技術のうち、ロゴマークを使用しているのは 9 件で全体(17 件)の約 53%であった。

表 5 平成 27 年度実証済技術の調査結果概要

ロゴマークの 使用数	ロゴマークの 未使用数	リンク先無し	(a)に違反する数	(b)に違反する数
9 件/17 件	8 件/17 件	2 件/9 件	0 件/17 件	0 件/17 件

4.2 平成 26 年度に修正依頼を行った実証済技術の調査結果

平成 26 年度に修正依頼を行った実証済技術の調査結果概要を表 6 に示す（詳細は別紙参照）。

修正依頼を行った 20 件のうち、半数の 10 件が修正を行っていなかった。ただし、未修正の 10 件のうち、2 件は共通ロゴマークの近傍に実証番号を配したものであるが、平成 20 年度以前（個別ロゴマークが作成される以前）には推奨されていた使用方法であるため、他の未修正の 8 件とは違反の程度が異なると考えられる。

また、ロゴマークを ETV 事業ホームページへのホットリンクとしていない事例が 6 件あった。なお、1 件は、実証試験結果報告書 PDF のページでのホットリンクとなっていた。

表 6 平成 27 年度実証済技術の調査結果概要

修正数	未修正数	リンク先無し	(a)に違反する数	(b)に違反する数
10 件/20 件	10 件/20 件	6 件/20 件	7 件/20 件	3 件/20 件

4.3 平成 26 年度に今後修正依頼を検討すべきとした実証済技術の調査結果

平成 26 年度に今後修正依頼を検討すべきとした実証済技術の調査結果概要を表 7 に示す（詳細は別紙参照）。

6 件のうち、2 件は事業者により自発的に修正されていた。

また、ロゴマークを ETV 事業ホームページへのホットリンクとしていない事例が 3 件あった。

表 7 平成 26 年度に今後修正依頼を検討すべきとした実証済技術の調査結果概要

修正数	未修正数	リンク先無し	(a)に違反する数	(b)に違反する数
2/6 件	4/6 件	3/6 件	0/6 件	0/6 件

5. 対応方針案

以上の調査結果を踏まえて、対応方針案を表8に、修正依頼を行う技術リスト（案）を表9に示す。

表8 ロゴマークの使用状況の調査結果を踏まえた対応方針案

対象	対応方針案
ロゴマークを ETV 事業ホームページへのホットリンクとしていない技術（多数）	「実証」であることに関する誤解を与えかねないものやロゴマークの加工を行っているものと比較すると軽微な違反であると考えられる。そのため、修正依頼は行わず、平成 29 年度事業実施要領において、「ホットリンクとすることが望ましい」という表現に改めることとしたい。
平成 27 年度実証済技術（17 件）	不適切な使用は見られなかったため、修正依頼は行わない。
平成 26 年度に修正依頼を行った実証済技術のうち、修正が行われていない技術（10 件）	未修正の事例 10 件のうち、共通ロゴマークの近傍に実証番号を配している事例 2 件以外の 8 件に対して、再度修正依頼を行うこととしたい。
平成 26 年度に今後修正依頼を検討すべきとした実証済技術のうち、修正が行われていない技術（4 件）	ETV 事業内容の誤認等に繋がるクリティカルな事例はないため、修正依頼は行わない。

表 9 修正依頼を行う技術リスト（案）

技術分野名	実証番号	技術名	企業名	違反内容	事業実施要領での記載内容	URL
有機性排水処理技術分野	020-0602	食品残さ回収システム『ラクッチャ〜』	株式会社KOMATSU	以下の記載あり。 「環境省の行っている環境技術実証においても <u>高い評価</u> を頂きました」	4.(2)① 実証事業関係諸機関による実証済技術の事業者、製品、技術、サービス等についての保証・認証・認可等を少しでも謳うような状況で使用しない。	http://komatsu-cleansystem.co.jp/
閉鎖性海域における水環境改善技術分野	090-0802	複合的沿岸環境改善技術	五洋建設株式会社/日新製綱株式会社/株式会社マリンアース/海洋建設株式会社	・以下の記載あり。 「弊社他3社で、呉市において実証実験の閉鎖性海域における水環境改善技術が環境省環境技術実証事業に認定され、認定番号の交付を受けました。それにともない、環境省のロゴマークの使用が認められました。」 ・写真上部に ETVHP へのリンクがあるがリンク切れ。		http://w01.tp1.jp/~a203017283/mearth/
ヒートアイランド対策技術分野（建築物外皮による空調負荷低減等技術）	051-1227	まどりーど・HP ブラウンスモーク	大建工業株式会社/株式会社ミューティンクプラン	以下の記載あり。 環境省の環境技術実証事業に選定され、 <u>一定の断熱・遮熱効果は確認されていますが</u> 、「まどりーど」の最大の特性は、その付加価値です。		http://www.yukadan.com/wp-content/themes/yukadan_cms/images/pdf/catalog_05.pdf
	051-0928	EX クリアー G	株式会社エコゴールド	会社概要の商品認定・特許等のところに「環境省 環境事業実証事業（ETV）」環境省 ETV サイトへのリンクあり。		http://www1.tst.ne.jp/ecogold/contents/company.html
	051-0858	アドマクールペイント ソフトリカバルーン	菊水化学工業株式会社／株式会社アドマテックス	アドマクールペイント（高日射反射率塗料）と共に、 <u>環境技術実証事業でも認証されています。</u>		http://www.kikusui-chem.co.jp/products/detail/%E3%82%BD%E3%83%95%E3%83%88%E3%83%AA%E3%82%AB%E3%83%90%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%83%B3
	051-0730	露取りガラス（既存の窓ガラスに片側 Low-E ガラスを使用した複層ガラスを取り付ける技術）	アオキ株式会社	・以下の記載あり。 スリムペアピタットは環境省環境技術実証事業（ETV）の認定商品です。 ・実証番号が間違っている。		http://www.aoki-g.jp/kaiteki_pair_glass/pair003.html

技術分野 名	実証 番号	技術名	企業名	違反内容	事業実施要領 での記載内容	URL
	051- 1128	セラミック コート	日本テレビ株 式会社 /株式 会社都市ネット	トップページに実証番号と共に共通ロゴマークを使用		http://www.telenix.co.jp/
	051- 0935	ルーフシェ ード	日本ワイド クロス株式 会社	共通ロゴマーク改変（ETV の部分のみ切り取って記載）	4.（1）③ ロゴマークに 対して、切 断・分割・変 形等の加工を 行わない。た だし、ロゴマ ーク全体の 大きさを変える ことは可能で ある。	http://www.sunsunnet.co.jp/roof_shade/roof7.html

(別紙)

表 10 平成 27 年度実証済技術のロゴマークの使用状況

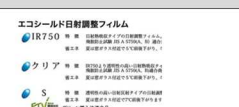
技術分野名	実証番号	実証技術名	会社名	関連URL (報告書記載)	内容	使用状況	画像
中小水力発電技術分野	120-1501	クロスフロー水車 H & F Waterwheel	合同会社ひさき発電	なし	-	-	-
	120-1502	クロスフロー水車 T80R 20144	エネフォレスト株式会社	http://www.eneforest.co.jp/	会社トップページ	未使用	-
	120-1503	クロスフロー水車 T80C-HR 1631	エネフォレスト株式会社	同上	同上	同上	同上
	120-1504	低圧兼用小型水力発電設備 Low head turbine system	株式会社松本動力	http://www.km-d.co.jp	会社トップページ	未使用	-
自然処理トイレ・ し尿処理技術分野	030-1501	循環式し尿処理機Circulation Water Obase (水使用・生物処理・菌剤添加 (酵素 剤))	株式会社ハイテックス	http://www.eco-hitech.co.jp/	会社トップページ	ロゴマークの添付された実証報告書の画像を掲載。 「2016年3月にETVロゴマーク取得」	
	030-1502	TSS汚水処理施設(Tank & ISS system (水使用・生物処理・土壌))	大成工業株式会社	http://www.daisei-kogyo.co.jp	会社トップページ	会社トップページに個別ロゴマーク有。 リンク先は環境省ETVウェブサイトトップページ。 「TSS無放流装置は環境省の環境技術実証事業により 実証番号及びロゴマークを取得しています。」	
有機性排水処理技術分野	020-1501	B&Aバイオ固形物による油水分離水 槽内油分離方法	セキュリオン・24株式会社	http://www.secursion24.co.jp/	会社トップページ	会社トップページに個別ロゴマーク有。 リンク先は環境省ETVウェブサイトトップページ。 「当社のグリストラップ・バイオ固形物システムが 環境省環境技術実証事業 (ETV) の対象事業に選定 されたことで、多くの引き合いをいただけていま す。あらたに大手ファミリーストラップ、ファスト フード店、ホテル等に導入していただきました。」 ニュースリリースにロゴマーク取組に関するPDF有。 「ETVは、環境省が募集した先進的環境技術の評 価試験を行い、客観的に環境保全効果を実証するこ とで、環境技術の普及促進を後押しする事業です。 評価試験は第三者機関によって行われ、水環境の改 善効果 (全炭化物流減、酸化水素削減) が実証され ました。当社はこの実証番号取得を機に、排水域へ の応用、海外展開も視野に入れて環境改善事業の一 環の推進を行っていきます。」	
野鳥等水質改善技術分野	080-1402	酸化バクテリアによる低炭酸養分技術	宇都宮リアルズ株式会社	http://www.uken-sterik.co.jp/	会社トップページ	同上	同上
	080-1401	環境配慮型複層装置 「エムレボ エムレボエア」	株式会社エディプラス	http://www.edyplus.co.jp/index.html	会社トップページ	未使用	-
水質改善技術分野	080-1402	促進酸化水処理システム	株式会社竹村製作所	http://www.takamura.co.jp	会社トップページ	未使用	-
	051-1501	<応用バクテリア培養ガラス> トロボス	日本振興子環境アミニティ株式会社	http://www.ama-ki.com	会社トップページ	未使用	-
ビートアイランド対策技術 (緑地・水利用)による空間 環境改善技術	051-1502	<応用日射遮蔽フィルム> 応用日射遮蔽フィルム (内貼用) HX-35	旭硝子株式会社	http://www.agc.co.jp	会社トップページ	未使用	-
	051-1503	<応用日射遮蔽フィルム> 応用日射遮蔽フィルム (内貼用) H-90	旭硝子株式会社	同上	同上	同上	同上
ビートアイランド対策技術 (緑地・水利用)による空間 環境改善技術	051-1504	<応用日射遮蔽フィルム> 応用日射遮蔽フィルム (内貼用) エコ シールドフィルム Eco-shield film	株式会社ESC研究所	http://www.esc-ecoshield.jp/	会社トップページ	商品ラインアップのページに小さく共通ロゴマーク を使用。 環境省ETVウェブサイトへのリンク無。	
	051-1505	<応用日射遮蔽フィルム> 応用日射遮蔽フィルム (内貼用) ベン ジェックス PEX-7570H	日東電工株式会社	http://hitec.co.jp/about/technology/	製品紹介ページ	カタログ末尾に個別ロゴマーク2つ有 (平成26年度 実証分)。	
ビートアイランド対策技術 (緑地・水利用)による空間 環境改善技術	051-1506	<応用日射遮蔽フィルム> 応用日射遮蔽フィルム (指向性反射技 術) ALBEDO・ALBUTON (指向性反射技 術)	デクセラリアルズ株式会社	http://www.dexerial.co.jp/	会社トップページ	製品紹介ページに個別ロゴマークを使用。 環境省ETVウェブサイトへのリンク無。	
	052-1501	【実証単位】 (a) システム全体 山形県山形市の日本水資源開発株式会社 事務所における地中熱利用冷暖房シス テム	日本地下水開発株式会社 日本地下資源開発株式会社	http://www.jgd.co.jp/	会社トップページ	会社トップページに個別ロゴマークを使用。 環境省ETVウェブサイトへのリンク有。	
ビートアイランド対策技術 (緑地・水利用)による空間 環境改善技術	052-1502	【実証単位】 (b) 地中熱/下水等専用 ヒートポンプ 高効率大容量ヒートポンプ装置 ZOH-H45H 45kW	ゼネラルヒートポンプ工業株式会社	http://www.zenemico.co.jp/	会社トップページ	製品カタログに個別ロゴマーク2つを使用 (平成 21、22年度実証分)。 「環境技術実証事業とは、既に実用化され、有用と 思われる先進的環境技術について、その環境保全効 果等を第三者機関が客観的に実証する事業です。」	

表 11 平成 26 年度に修正依頼を行った技術のロゴマークの使用状況 (1/2)

技術分野	年度	番号	実証済技術名	申請者	チェック結果	修正依頼内容	関連URL等	確認結果
有機性排水処理技術分野	H 23	020-1103	余剰汚泥減量システム「オーディライト」	四国化成工業株式会社	余剰汚泥減量システム「オーディライト」(オーディライト溶解剤と専用薬剤「オーディライト-200」が「環境省」の環境技術実証事業「環境技術実証事業」の平成23年度対象技術に選ばれ、実証機関により年間実施された実証試験結果が、この度環境省に承認されました。ロゴマークを使用しているがリンクなし。	環境技術実証制度を環境技術実証制度に変更をお願いしたい。 ロゴマークのリンク先を環境技術実証事業ホームページとしていただきたい。	https://www.shikoku.co.jp/product/chemica/organic/di-light.php	制度名は修正済み リンクは無し
	H 21	020-0901	厨房排水処理装置「ECOTRIM」	OPPC株式会社	OPPC株式会社の「厨房排水処理装置「ECOTRIM」(エコトリム)」は平成21年度環境技術実証事業「小規模事業場向け有機性排水処理技術分野」における「平成21年度実証された実証対象技術」として環境省に承認されました。ロゴマークなし。	承認を「選定され実証を受けました」等に変更して頂きたい。	http://www.oppc.jp/ewsb/html/news20090105.html	修正済み
	H 18	020-602	食品残渣回収システム『ラクチャ〜』	株式会社KOMATSU	HPIに「環境省の行なっている環境技術実証においても高い評価を頂きました。」との記述あり ロゴマーク使用しているがリンクなし。	「高い評価を頂きました」の記述を実証の意味に即したものに修正して頂きたい。 ロゴマークのリンク先を環境技術実証事業ホームページとしていただきたい。	http://komatsu-cbansystem.co.jp/	未修正
	H 16	020-0408	微生物製剤添加型ハイブリッド生物処理法	株式会社 エス・エル	本システムについては、環境省の平成16年度環境技術実証モデル事業に採択され、小規模事業場向け有機性排水処理技術「微生物製剤添加型ハイブリッド生物処理法」としても認定されています。	認定を「選定等」に変更して頂きたい。	http://www.jk-s.co.jp/business/0201-ah.html	「第三者機関による実証試験で性能を確認しました。」に修正されている。
ヒートアイランド対策技術分野(地中熱・下水等を利用したヒートポンプ空調システム)	H 22	052-1003	(A)システム全体 学校法人森村学園における地中熱利用ヒートポンプシステム	ミサワ環境技術株式会社		元のデザインロゴマークを使用していただきたい。	http://www.ecomisa.co.jp/	修正済み
閉鎖性海域における水環境改善技術分野	H 20-21	090-0802	複合的沿岸環境改善技術	株式会社マリンアース	「弊社他3社で、県市において実証実験の閉鎖性海域における水環境改善技術が環境省「環境技術実証事業」に認定され、認定番号の交付を受けました。それとともない、環境省のロゴマークの使用が認められました。」 写真上段にETVHPへのリンクがあるがリンク切れ。 	認定を「選定等」に変更して頂きたい。	http://01.jp1.jp/a203017283inearth/	未修正
	H 20-21 H 20	090-0802 090-0801	複合的沿岸環境改善技術 人工中層海域による閉鎖性海域における生物生態環境の改善技術	海洋建設株式会社	「JFシェルナースは各種環境マークに認定・登録されました。」 ロゴマークを使用しているがリンクなし。	他の認定をしているマークとは離して記載いただきたい。 ロゴマークのリンク先を環境技術実証事業ホームページとしていただきたい。	http://www.kayoh.co.jp/mark/index.html	修正済み
	H 19	090-0702	海底耕耘機によるマイクロバブルエアレーション	株式会社キューヤマ	単に、環境省の環境技術実証事業(ETV)の検証を受けました。 ロゴマークを使用しているがリンクなし。	検証を実証に変更していただきたい。 ロゴマークのリンク先を環境技術実証事業ホームページとしていただきたい。	http://www3.ocn.ne.jp/kyu-yama/6g116.html	会社ホームページ見つけからず (例産?)

表 12 平成 26 年度に修正依頼を行った技術のロゴマークの使用状況 (2/2)

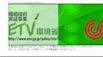
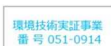
技術分野	年度	番号	実証済み技術名	申請者	チェック結果	修正依頼内容	URL等	確認結果
ヒートアイランド対策技術分野(建築物外皮による空調負荷低減等技術) ※平成25年度実証事業者に対しては(一財)建材試験センターが調査。	H25	051-1307	クリアシールド・SC 70 E	株式会社PVJ	HPにETVの過去の一覧あり。デザインを変更しての共通ロゴの使用あり。 技術実証事業で実証を行った技術には、環境技術実証事業ロゴマークが交付されます。但しPVJは、さまざまなフィルムで実証番号を付与されております。	共通ロゴを元のデザインに戻していただきたい。 ロゴマークのリンク先を環境技術実証事業ホームページとさせていただきたい。	http://www.pvjfnc.jp/	ロゴマークデザインは修正済み 個別ロゴマークをクリックするとロゴマークが拡大されるのみ。
	H23	051-1102	ハニタウインドフィルム SZ02M			「一定の断熱・遮熱効果は確認されていますが、・・・」を「断熱・遮熱効果は実証されていますが、・・・」に修正をお願い致します。	http://www.sukadan.com/asp-content/themes/sukadan_cm/s/m/ages/addcataog_05.pdf	未修正
	H21	051-0901	SZ0B15					
	H20	051-0802	SZ050 T					
	H19	051-0717	SZ70M					
	H18	051-0616	SC 70					
	H18	051-0617	SZ20S					
	H24	051-1227	まどりーど・HP ブラウンスモーク	大建工業株式会社／株式会社ミナミヒーティングプラン	環境省の環境技術実証事業に選定され、一定の断熱・遮熱効果は確認されていますが、「まどりーど」の最大の特性は、その付加価値です。断熱・遮熱など、日常の省エネ・節電をしながら、方々の防炎や防犯へのリスクにも対応可能です。 だから「まどりーど」が選ばれているのです。(パンフレット本文)	「一定の断熱・遮熱効果は確認されていますが、・・・」を「断熱・遮熱効果は実証されていますが、・・・」に修正をお願い致します。	http://www.jebnkc.co.jp/	未修正
	H23	051-1128	セラミックコート	日本テレニクス株式会社 株式会社都市ネット	トップページに共通ロゴマークとともに実証番号の記載あり。 	会社や製品に対するロゴマークと誤解されないように実証対象技術の付近に実証番号を記載していただきたい。 ロゴマークのリンク先を環境技術実証事業ホームページとトップページには共通ロゴマークを使用していただきたい。	http://www.jebnkc.co.jp/	未修正
	H22	051-0966 051-0847	ミラクル S W 200 ミラクル S S O O	ミラクル株式会社 ミラクル株式会社／長島特殊塗料株式会社	トップページに改変ロゴマークに5実証技術併記 	交付したロゴマークが改変されており、5実証技術併記されている。交付したロゴマーク	http://www.miracool.com/item-for-bu/himg/miracool-sw200/ http://www.miracool.com/item-for-bu/himg/miracool-em/himg/	修正済み
	H22	051-1034	水性シリカクール F TYPE	株式会社 丸協	共通ロゴマークを改変してトップページに3つあり。 シリカクールは環境省の環境技術実証番号の交付を受けております。 	共通ロゴマークを元のデザインに直して頂きたい。	http://www.mankyo.co.jp/	未修正
	H21	051-0928	EXクリアーG	株式会社エコゴールド	会社概要の商品認定・特許等とともに「環境省 環境技術実証事業 (ETV)」環境省ETVサイトへのリンクあり。ロゴマーク商品サイトはロゴマークのみ 	会社概要の商品認定・特許等とともにETVのロゴマークがあるのは、誤解を与えてしまうため、修正をお願い致します。	http://www.1stnet.jp/eco02/contents/company.htm	未修正
	H21	051-0946 051-0947 051-0948	エコクールアクアSi・水性遮熱塗装システム エコクールマイルドSi・弱溶剤形遮熱塗装システム エコクールアクアSi・水性低臭塗装システム	大日本塗料株式会社	パンフレットおよび2012社会・環境報告書に「エコクールシリーズ」による遮熱と断熱機能については先進的な環境技術を第三者機関が判定する環境省実施のETV(環境技術実証事業)で前電効果が認められ、その独自性が客観的に評価されました。 	「・・・節電効果が認められ、その独自性が客観的に評価されました。」を「・・・前電効果が客観的に実証されました。」に修正をお願い致します。	http://www.tokai.co.jp/portal/catabase/ew/htacesta/rla/action.do?method=starfile&ode=AG&catabaseCateogorid=catabaseId=248126000&page&oupB=&volmeD=CATALABO&desknD=link	修正済み 「エコクールシリーズ」は、建築物外皮による空調負荷低減技術に実証されています。」
	H21	051-0937 051-0938 051-1039	サーモシャダンPU サーモシャダンAR サーモシャダンPU S	中国塗料株式会社	製品カタログに「環境技術実証事業により実証された遮熱効果、環境省が主導する環境技術実証事業は、環境保全効果等が有用な技術に対し第三者機関による客観的な評価を行い、その効果を実証することで環境保全と環境産業の発展を目指す事業です。サーモシャダンはこの実証事業において効果を実証されています。」とある。 ロゴマークに実証番号3つ併記。 	交付したロゴマークが改変されており、3実証技術併記されている。交付したロゴマークに変更して頂きたい。	http://www.cn.co.jp/brnary/products/pdf/p/catab/them_e_shadan-tpdf	修正済み
	H21	051-0935	ルーフシェード	日本ワイドクロス株式会社	製品リンクにロゴマーク 実証試験結果(2)で、「試験機関ETV環境省 環境技術実証事業」 	交付したロゴマークが改変されているため、交付したロゴマークに変更して頂きたい。 ロゴマークのリンク先を環境技術実証事業ホームページとさせていただきたい。	http://www.sunsumnet.co.jp/roofshade/roof.htm	未修正
	H21 H19	051-0811 051-0725	アットシールド・クリア YM8YX-4 アットシールドクリア・YM8YX	株式会社フォーユー	本年5月20日、環境省・環境技術実証モデル事業 [ETV] 実証試験報告書が公表されました。そして「アットシールド・クリア」はコーティング剤での最高値を実証することができました。今後は環境省ホームページに実証結果としてご確認いただくことができます。ロゴマークあり、2つに番号併記。 	交付したロゴマークが改変されており、2実証技術併記されている。交付したロゴマークのリンク先を環境技術実証事業ホームページとさせていただきたい。	http://www.foryou.co.jp/clear-08.htm	未修正
	H20	051-0958	アドマクールペイント ソフトリカバレン	清水化学工業株式会社／株式会社アドマテックス	アドマクールペイント(高日耐度耐塗料)と共に、環境技術実証事業でも実証されています。 	「～実証されています。」を「実証されています。」に修正をお願い致します。	http://www.kkusurichem.co.jp/products/etna/E3%E3%82%BD%E3%83%95%E3%83%88%E3%83%AA%E3%82%B%E3%83%90%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%83%B3	未修正
	H19	051-0730	露取りガラス(既存の窓ガラスに片側Lowモガラスを使用した複層ガラスを取り付ける技術)	青木硝子株式会社 アオキ株式会社(社名変更)	※スリムペアビタットは環境省環境技術実証事業 (ETV) の認定商品です。 (実証認定番号 No.051-0730) 一番号達う 「適用用付録型露取りガラス(スリムペアビタット)」 ※スリムペアビタットは環境省環境技術実証事業により認定商品です。 (実証認定番号 No.051-0730) 一番号達う 	認定製品を実証製品に修正を依頼したい。 実証番号がこととなっているため、修正をお願いしたい。	http://www.aoki-g.co.jp/etna/etna_bss/s003.htm	左記の文章はなく なっているが、実証認定番号の記載や番号の間違いは未修正。 リンクは無

表 13 平成 26 年度に次年度以降修正依頼を検討すべきとした実証済技術のロゴマークの使用状況

技術分野	年度	番号	実証済技術名	申請者	チェック結果	修正依頼内容	関連URL等	確認結果
有機性排水処理技術分野	H25	020-1301 020-1302	スカムセーブネット&オイルキャッチシステム NH-KB シリーズ スカムセーブネット&オイルキャッチシステム NH-F シリーズ	株式会社サンユウ	会社HPあり。トップページにて個別ロゴマーク使用。 ロゴマークをクリックすると実証試験結果報告書概要版へ飛ぶ。 	ロゴマークのリンク先を環境技術実証事業ホームページとしていただきたい。	http://sannyu.com/	変化なし
ヒートアイランド対策技術分野（地中熱・下水等を利用したヒートポンプ）	H25	052-1301	埼玉県桶川市の株式会社P E C事務所における地中熱利用冷暖房システム（実証単位（A））	株式会社P E C	会社HPあり。トップページにてロゴマーク使用。 ロゴマークをクリックするとETVウェブサイト実証済み技術一覧へ飛ぶ。 	ロゴマークのリンク先を環境技術実証事業ホームページとしていただきたい。	http://pecbor.co/	修正済み
ヒートアイランド対策技術分野（建築物外皮による空調負荷低減等技術）	H25	051-1311	クリスタルボンド省エネガラスコーティング・KB90	株式会社ECO P	トップページにH24年度の個別ロゴマークを使用。 		http://www.ecop.jp/	変化なし
	H24	051-1214	エコートプラス	イサム塗料株式会社	ロゴマークあり。技術名併記。	ロゴマークのリンク先を環境技術実証事業ホームページとしていただきたい。	http://catalogs.isamu.jp/ecoatplus	変化なし
	H24	051-1221	エコフィックス・E-120R	五洋インテックス株式会社	実証済み技術については、実証番号及び共通ロゴマーク、個別ロゴマークが交付され、各都道府県のヒートアイランド対策、省エネ対策の助成金、補助金を申請する際の第三者機関性能評価証明書としてご利用頂けます。（各都道府県で申請対象が「個人のみ」など、異なりますので、ご確認をお願いします。）（ニュースリリース本文）		http://www.goointex.co.jp/new/sdot/ecofix-kankyousyou.pdf	変化なし
	H22	051-1015	省エネECOガラスコート SP	株式会社 ECO ビジネス倶楽部本部	共通ロゴマーク、実証番号ともにTopページに記載があるが、全体に対する実証のような印象もある。 		https://www.eco-b-hq.com/省エネガラスコート/	修正済み （技術紹介ページに共通ロゴマークを使用）

平成 28 年度環境技術実証事業実施要領

第 13 章 ロゴマーク等の使用

1. 目的

本実証事業を一般に広く普及させ、環境技術の普及を促し、環境保全と地域の環境産業の発展による経済活性化が図られることを目的として、別紙 2 に示すロゴマークを「環境省環境技術実証事業ロゴマーク」（以下、「ロゴマーク」という。）として定める。

2. ロゴマークの構成

- (1) ロゴマークは、別紙 2 に示すとおり、全技術分野共通的な情報を盛り込んだもの（以下「共通ロゴマーク」という。）及び共通ロゴマークに対象技術分野ごとの固有の情報を記載したもの（以下、「個別ロゴマーク」という。）からなる。
- (2) 個別ロゴマークに記載する、対象技術分野ごとの固有の情報の項目及び記載位置は、技術分野ごとに統一することとし、実証機関において、技術実証検討会の検討・助言を踏まえ案を作成し、環境省が決定する。

3. ロゴマークの使用

- (1) 使用できるロゴマークは、共通ロゴマーク又は個別ロゴマークとする。
- (2) ロゴマークは、4. の遵守を条件に、以下のために積極的に使用することとする。このための使用に当たっては、環境省、実証運営機関及び実証機関（以下、「実証事業関係諸機関」）への届出や承認等は特に必要としない。
 - ① 本実証事業を新聞・雑誌・学術論文・ウェブサイト等において一般に紹介するために使用すること
 - ② 実証試験結果報告書が承認された対象技術について、当該技術の紹介や広告等のために使用すること
 - ③ 実証運営機関及び実証機関に選定された機関が、その期間において、それら機関に選定されている旨の表示のために使用すること
 - ④ 実証済技術により、環境保全に取り組んでいる場合、その期間において、その旨を表示するために使用すること
- (3) 上記（2）以外で 1. の目的のためにロゴマークの使用を希望する場合は、環境省と協議することとする。

4. 表示方法

(1) ロゴマークの表示方法

- ① 共通ロゴマークの配色は別紙 3 に示すものとし、その他の配色を使用することはできない。
- ② ロゴマークは、独立したマークとして容易に識別できるように表示する。

③ ロゴマークに対して、切断・分割・変形等の加工を行わない。ただし、ロゴマーク全体の大きさを変えることは可能である。

④ ウェブサイトにおいて使用する場合、ロゴマークは環境技術実証事業ホームページ (<http://www.env.go.jp/policy/etv/>) へのホットリンクとする。

(2) ロゴマークの遵守事項

① 実証事業関係諸機関による実証済技術の事業者、製品、技術、サービス等についての保証・認証・認可等を少しでも謳うような状況で使用しない。

② ロゴマークを、製品、サービス、技術等の名称の一部に使用しない。

＊ 技術の紹介や広告等のために使用する場合は、以下の点についても遵守しなければならない。

③ 実証対象技術が明確に判別できるようにロゴマークを配置する。その一部に実証対象技術を用いた複数の製品のシリーズがある場合には、ロゴマーク適用対象の範囲を明示すること。また、実証試験時と実際の製品使用時とで製品の性能に相違が生じる場合、又はその可能性がある場合、その性能の差異を生じさせる主要素について明示すること。なお、ロゴマークの対象範囲について疑義がある場合には、環境省に協議することとする。

5. 改善等の指示

(1) 実証運営機関は、実証機関と協力して、実証済技術の使用状況をウェブサイト等を通じて定期的に監視し、本実施要領を遵守せずにロゴマーク及び実証試験結果報告書を使用している者及び事例を確認したときは、速やかに環境省に報告するとともに、必要に応じて注意喚起を行うことができる。

(2) 環境省は、ロゴマーク及び実証試験結果報告書を使用している者が、本実施要領を遵守せず、また、環境技術実証事業の信用を損ねるなど悪質な行為の恐れのある場合であって、注意喚起を行っているにも関わらず、改善が見られない場合、実証運営機関及び実証機関の協力を得ながら、ロゴマーク及び実証試験結果報告書を使用している者に対して、以下の措置を講じることができる。

① ロゴマーク及び実証試験結果報告書の使用を直ちに中止させる。

② ロゴマーク及び実証試験結果報告書の公表等を直ちに中止する。

6. 経過措置

本実施要領の施行前に製品やカタログ等において印刷等しているロゴマークについては、そのまま使用することができる。また、環境技術実証モデル事業の期間において実証された技術についても、本実施要領に示すロゴマークを使用することができる。この場合、実証番号については、環境技術実証モデル事業において交付された実証番号とする。